

佐賀県ユニバーサルデザイン推進指針

だれもが住み慣れた地域で、いこいとぬくもりを感じながら安心して暮らしていける社会の実現を目指すため、今年3月に策定された指針です。

利用者が使いやすい施設の整備などを進める「まちづくり」、だれにとっても使いやすい製品の開発・普及を推奨する「ものづくり」、だれもが楽しく過ごせるための情報サービスを広める「ソフトづくり」、他人を思いやる心を持ち続けるよう、学校や地域、職場で普及をはかる「意識づくり」の4つの分野で、県民、CSO、企業、行政などが一体となって取り組みます。

ユニバーサルデザイン施設整備基準

チャレンジド(障害者)や高齢者の方だけでなく、すべての人が利用しやすいような整備がなされた施設を示す基準です。今回、その第1号として、「アイ・フォレスト」にUD適合証が交付されました。



佐賀県ユニバーサルデザイン推奨品

県内で企画・製造される、より多くの人が使いやすいよう配慮された製品を県の「推奨品」として選定します。この推奨品を広めることで、県内にユニバーサルデザインの普及や県内産業の振興につなげます。

平成17年度の推奨品は次のとおり。

- かゆ鉢およびレンゲ (有限会社陶祥窯)
- 焼酎グラス (有田焼卸地協同組合)
- すくい易い食器 (有限会社しん窯)
- 自立支援食器 (株式会社山忠)
- 排水ユニット・セーフティグレーチング (株式会社シマブン)
- 天板回転テーブル (有限会社岡インテリア工業)



左/取っ手を大きくして持ちやすくした「自立支援食器」

右/パソコンなどの配線取り付けが簡単な「天板回転テーブル」



※ユニバーサルデザインについて詳しくは県ホームページ (<http://www.pref.saga.lg.jp>) をご覧いただくか、県地域福祉課 (☎0952-25-7053) にお問い合わせください。

主な扉は引き戸(スライドドア)とし、廊下の幅を広くとって、各階に多機能トイレ



を設置するなど、チャレンジド(障害者)の方が働きやすい職場環境を実現。また、



上/広くて使いやすい女性化粧室。個人専用の小物入れは700人分用意されている

下/雨にぬれずに乗り降りができる屋根付きのチャレンジド用駐車場

慣れた人を想定して設計。

「変わらない価値」がキーワード

「アイ・フォレスト」の1階は、保育所や研修室など公共の場。屋根付きのチャレンジド用駐車場や誘導ブロックを設けるなど、初めて来る方たちに配慮。2、3階は毎日使うオフィスなので、ある程度慣れた人を想定して設計。



上/広いスペースで、手すりやベビーシートなどが装備された多機能トイレ

下/車いすで屋上に行けるように設置されたスロープ

「同じ呼び方でも、使う人の状況でユニバーサルデザインの内容は違ってくる」と言うのは、株式会社日立建設設計の高梨浩行さん。「既存ビルの高梨浩行さん。」「既存ビルの改修では難しいことも、新しく造ったビルならではの工夫で、チャレンジドの方たち

にも利用しやすい環境にならたと思う」と話します。利用する人みんなにやさしいユニバーサルデザインを実現した「アイ・フォレスト」。時を経て変わらない価値を持ち続けるオフィスの可能性を広げています。

女性化粧室に小物入れやパウダーコーナーを設けるなど、働く女性にとっても快適なオフィスとなっています。

利用する人みんなにやさしい

「ユニバーサルデザイン」

佐賀市内の中心部、豊かな緑が広がる「どん3の森(どん3の森)」に建つ

情報関連オフィスビル「アイ・フォレスト」。

大型コールセンターなどの誘致を実現するために、県と民間が一体となって整備した

佐賀県のユニバーサルデザイン施設整備基準に適合した第1号のビルです。

そこで働く人や利用する人、みんなにやさしいオフィスビルが誕生しました。



ビルの企画、設計、建築などに携わったメンバーたち

写真右から、日立キャピタル(株)の萩原保さん、(株)日立建設設計の高梨浩行さん、松尾建設(株)の松下徹さん、日本インテリジェンス(株)の広見洋介さん

どん3の森の新しいランドマーク

どん3の森のオフィス群の中でも、ひとときわかるく目を引く「アイ・フォレスト」。コールセンターやIT関連企業の入居を目的に建築され、県が進める「ユニバーサルデザイン施設整備基準」を基本コンセプトに組み込んで、誰でも分け隔てなく働ける環境訪れる人に利用しやすい環境を作り上げています。

「アイ・フォレスト」を建築した日立キャピタル株式会社社長の萩原保さんは、「コールセンターは、女性が多い職場。しかも300人前後が1フロアで仕事をするので、女性はもちろん、みんな



「業務フロア入口のドアは、誰にでも使いやすい引き戸にしました」と山本さん

「ユニバーサルデザインというのは、みんなに優しいということだと、『アイ・フォレスト』に入居して、実際に使ってみて分かった」と言う、株式会社損害保険ジャパン佐賀「コールセンター」の山本学さん。「フロアや階段が広い。特に階段は一段一段が低く、傾斜も緩いので、一般の人にも上り下りが楽。エレベーターを使わない社員も多いですよ」と笑います。

使ってわかるUDのやさしさ

「こんなところで働いてみたいと思えるような建物、また市内のオフィスビルとして新しいランドマークになるような建物を考えた」と話します。



「佐賀県のランドマークにふさわしい建物になった」と萩原さん